

## 2020年度 いさがわ幼稚園 学校評価報告書（自己評価）

当園では、このたび令和2年度の幼稚園学校評価として、教職員の自己評価と関係者評価を実施いたしました。

この結果を踏まえ、さらなる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質の向上に努め、当園の保育の質を高めてまいりたいと考えております。

### 0. 園の目標

仏教環境のもと、人格形成の基礎を培い、自ら感じ、自ら考え、自ら行動することのできる子どもを育てる。

### 1. 教育の目標

- ・ 正しい生活習慣を身に着ける。
- ・ 人や生き物を愛することのできる、温かい心を育てる。
- ・ 智慧、心、体のバランスのよい成長を目指す。

### 2. 今年度の重点目標

- ① 保育内容の見直し（行事内容の見直し）
- ② 一人ひとりの成長を見守るとともに、必要な援助や働きかけを行う
- ③ 体力づくりへの取り組み
- ④ 安全管理体制の強化（不審者・感染症）
- ⑤ 満3歳児の受け入れ

### 3. 評価項目と取り組み状況

#### ① 保育内容の見直し

取り組み内容：各行事の内容を見直し

行事のための保育ではなく、保育の過程を大切にしていく。ゆとりの時間を十分にもち、子どもが遊びこむ時間にあてる。

新型コロナウイルス感染拡大の行事の見直し

単に行事に中止ばかりをすることなく、万全の注意を払って安全を確保したうえで、形を変えて子どもたちの経験を豊かなものするとともに、保護者参加もできるように工夫した。

取り組み状況：昨年は発表会の発表内容を劇1本に絞ったが、本年は劇の方法そのものを学年ごとに考え直した。時間に余裕ができた分、戸外の遊びの時間を十分にとった。

評 価：B

## ② 一人ひとりの成長を見守るとともに、必要な援助や働きかけを行う

取り組み状況：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を共有しながら、日々の保育の中で子どもたちの育ちを捉え、必要な援助や働きかけを行う。

取り組み状況：個別の支援が必要な子どもたちについては、十分な観察と保護者や関係機関との連携も十分に取れたと思う。  
幼児期の終わりまで、育ってほしい姿の共有はできたが、各クラスの事例を出し、保育者で考える園内研修の機会が少なかった。

評 価：B

## ③ 体力づくりへの取り組み

取り組み内容：おはようサーキットやラジオ体操、マラソンなどに取り組み、日々体を動かす機会をもつ。

取り組み状況：日々の活動の流れに組み入れ、各学年、熱心に取り組めた。子どもたちも色々な動きをすることに心地よさ感じ、十分楽しみながら、体の巧緻性や力をつけていった。

評 価：B

## ④ 安全管理体制の強化（不審者・感染症）（a）

取り組み内容：登降園時、保育中、侵入者が侵入しないように、人員を配置し、見落としている点がないか確認する。

取り組み状況：登園時、薬医門をあけることで人の流れの分散を図ってはいるが、誰も監視できていない盲点でもあったため、閉鎖し、全員大門から登園することにした。  
定期的なドアノブの消毒、三密の回避、マスクの着用と熱中症への配慮、食事時の飛沫防止の席配置、行事内容の変更、人数制限等、できる限りの対策は行った。

評 価：A

#### ④ 安全管理体制の強化（不審者・感染症）（b）

取り組み内容：新型コロナウイルス感染症予防対策について情報を得るとともに、計画的に対策をとっていく。  
感染予防として、園ですべきこと、新しい生活を見据えて見直していく。

取り組み状況：園でできる籌の対策は行った。三密を避けることを常に考え、大人はもちろん、子どもにも登園時の手指消毒、マスクの着用を日常化した。また、食事時、飛沫防止の席配置、ひとテーブルの人数を減らし、同方向を向いて食べる、食前のテーブル除菌、ドアノブの消毒などを、担当者を決めて計画的に行った。

評 価： A

#### ⑤ 満3歳児の受け入れ

取り組み内容：試験的に満3歳児のみのクラスを作り、受け入れ、満3歳にふさわしい園生活を送る。

取り組み状況：8月から満3歳の入園希望者があり、12月までに8名満員となった。良い生活習慣をつけつつ、満3歳にふさわしい活動をしなが  
ら、行動の幅を広げ、十分に園生活を楽しんだ。保育者も3歳児との違いもよくわかり、大変勉強になった。

評 価： C

\* 評価の基準：（A）十分達成されている （B）達成されている （C）取り組まれているが、成果が十分でない （D）取り組みが不十分である

## 今後取り組むべき課題

### ① 保育内容の見直し

行事の整理ができていますので、ついで、年間の保育の中でどのような環境を準備すれば、子どもの活動が豊かになるかも考えていく。

### ② 安全管理体制の強化（不審者・感染症）

従来通り、不審者を入れないことに重きをおきつつ、避難訓練、不審者侵入時を想定した場合のものを取り入れていく。

引く続き、新型コロナウイルス感染の拡大が見られるため、気を緩めず、日常の除菌、また、行事における関係者の参加制限などを実行していく。

### ③ 満3歳児の受け入れ

令和4年度からの認定こども園化に伴う2歳児の受け入れの参考にできるように、令和2年度の子どもの活動を見直し、2歳児のカリキュラムを作成するときの参考とする

### ④ 新型コロナウイルス感染症対策をするとともに、子どもの活動が消極的にならないように取り組む

保育内容としては、感染対策を行う中で、工夫して実行していく。

また、保育者として、職員一人ひとりの資質を高め、適切な幼児理解や援助ができるようにする。職員間で情報の共有や連携が図られるよう、会議や連絡システムを改善する。

さらに、安全面として、令和4年度の子ども園化に向けた準備工事が予定されているため、安全面に十分に配慮する。